

## サマリア人が救われた

(ヨハネ4・7～26)

## 一、主イエスとサマリアの女

7節をご覧ください。二人のサマリアの女が、水を汲みに来た。イエスは彼女に、「わたしに水を飲ませてください」と言われた。とあります。これは、普通だったらあり得ないことでした。ユダヤ人はサマリア人を忌み嫌っていたからです。

ところでこの出来事は、サマリアのどの場所だったのでしょうか。5節、6節より、スカルという町であったことが分かります。井戸は町から外れた所であったようです。8節に、「弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた」とあるからです。井戸が町から外れた所であったというのも不思議ですが、おそらく町にも井戸はあったのでありましょう。イエスが休まれた場所は、旅人の休憩場所であり、家畜に水を飲ませる場所であったようです(↓12節)。ということは、サマリアの女がわざわざ町外れにある井戸まで水を汲みに来たということですが。しかも「第六時」、すなわち正午頃のことですから、人目を避けていたことが分かります。

主イエスは、単刀直入に語り始められました。10節です。イエスは答えられた。「もしあなたが神の賜物を知り、

また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのかを知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたでしょう。そして、その人はあなたに生ける水を与えたことでしょうか。と。おそらく彼女にとっては、主イエスが語られることばは意味不明であったことと思われます。そこで彼女は言いました。15節です。彼女がイエスに言った。「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」と。

## 二、彼女は真剣になった

その後、彼女が真剣になったことが分かります。16節です。イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」と。彼女はハッとさせられました。おそらく、聞かれたくなかったことなのでありましょう。17節です。彼女が答えた。「私には夫がいません。」と。ですが彼女は、その先自分のことで突っ込まれるのも恐れず、正直に語りました。17節後半から18節です。イエスは言われた。「自分には夫がない、と言ったのは、そのとおりです。あなたには夫が五人いますから、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」と。彼女は、主イエスのことばを聞いて話を横に逸らすことをせず、まっすぐに向き合いました。正直な人

だったのだと思います。彼女は、イエスが特別なお方であることに気づき始めます。19節です。彼女が言った。「主よ。あなたは預言者だとお見受けします。」と。そして、賢い質問をします。20節です。私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」と。サマリアで生まれ育った彼女にとっては、ゲリジム山こそ礼拝する所として、先祖から伝え聞いてきた場所でした。当然と言えば当然です。

主イエス・キリストは、女に言われました。21節です。イエスは彼女に言われた。「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもなく、ところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。」と。さらに続けて語られました。22節です。救いはユダヤ人から出るので、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。」と。

## 三、主イエスを信じることにより

彼女は先祖から聞いてきた神の約束を口にしました。25節です。女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださいるでしょう。」と。これに対する主イエスのことばにご注目ください。26節です。イエ

スは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」とあります。ここで語られた主イエスのことばを、普通は何気なく読んでしまうことではありません。ですが主は、すごいことを語られました。と言いますのは、直訳しますと、イエスは彼女に言われた。「わたしはある。あなたと話している者が」と語られているからです。「わたしはある」とは、何でしょうか。モーセに現れた神は、モーセに向かって「わたしは『わたしはある』という者である」と語られましたが、そこで語られた「わたしはある」と同じです。すなわち、主イエスはサマリアの女に、あなたと話している者は神である、と暗示されたわけです。なぜに主イエスは彼女にそこまで語られたのでしょうか。それは、彼女に聞く耳があったからです。彼女の私生活には問題があったかも知れませんが、ですが、彼女は正直で、真理に対する洞察力がありました。それを、人となられた神である主イエス・キリストが見抜かれて重要なことを語られた、と知ることができます。

サマリア人が救われるとは、お弟子たちには考えられないことでした。しかしキリストは、私たちが縛られがちな偏見に縛られることのないお方です。「サマリア人が救われた」とは、どんな人でも主イエス・キリストを信じるなら救われるということです。